



この用紙費用の一部は「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付されています。

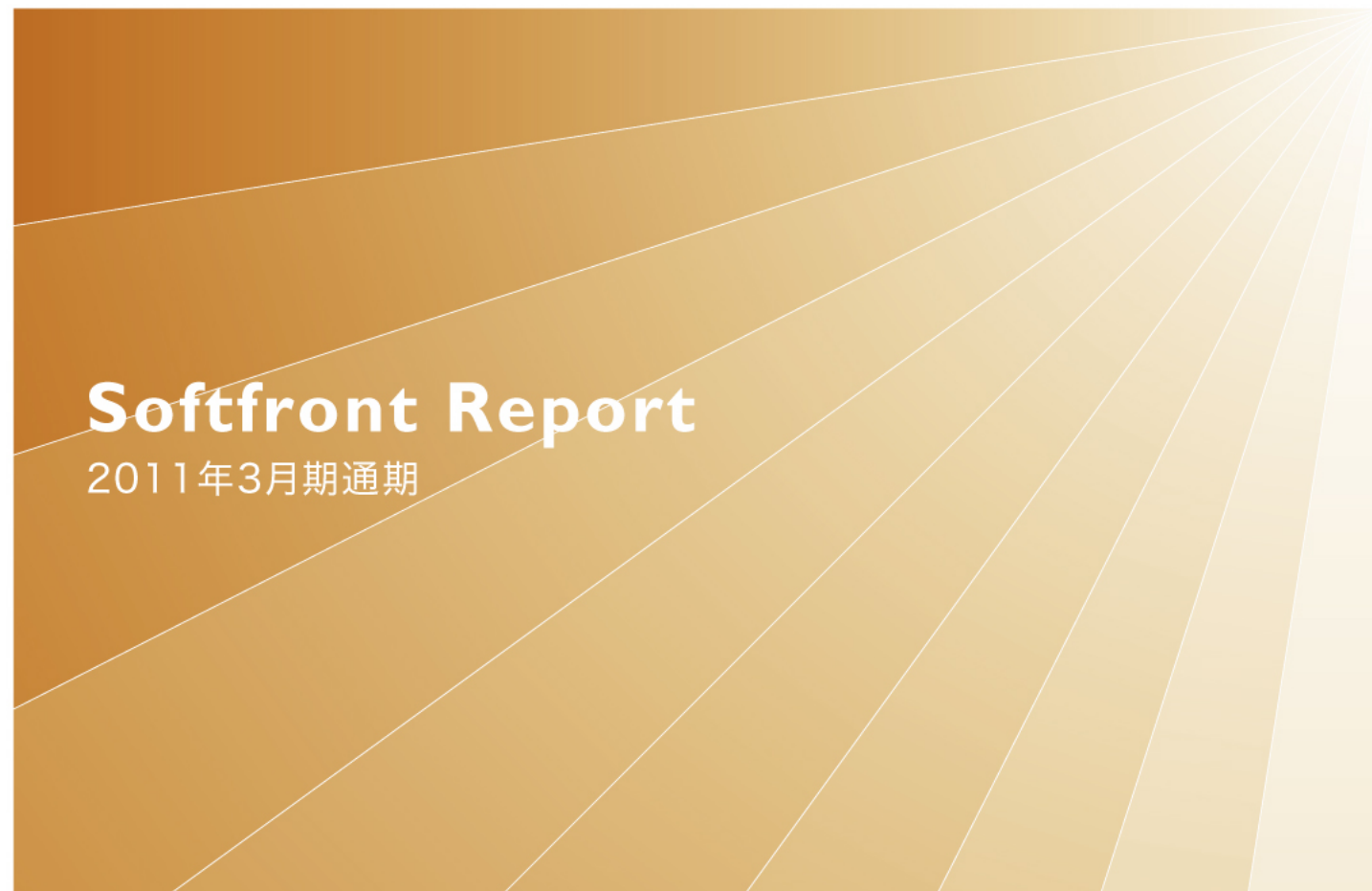


株主メモ

■証券コード	2321
■上場年月日	2002年9月10日
■上場証券取引所	大阪証券取引所 「JASDAQ」
■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	毎年6月開催
■基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
■公告の方法	当社のホームページに掲載する http://www.softfront.co.jp/
■株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
■お問い合わせ先	【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 【電話照会先】 ☎ 0120-176-417 【ホームページ】 http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

【株式に関する住所変更等のお届け及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。
証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡下さい。



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2011年3月期決算につきまして

2011年3月期の決算につきまして、ご報告させていただきます。

売上高783百万円、営業利益10百万円、経常利益11百万円、当期純利益8百万円となりました。

当期は、新たな中期経営方針に基づき、「収益基盤拡大」と「黒字体質への転換」という重点課題に積極的に取り組んだ結果、3期連続の赤字から脱却し、黒字転換を果たすことができました。株主の皆様のこれまでの温かいご支援に深く感謝しております。

業績数値面では、売上高におきましては、業績予想を上回り、前年に比較しても増収増益となりました。売上においては、電力系通信事業者向けの製品販売が好調であったことやその他のソフトウェア販売も好調で、当社ビジョンの一つ「ライセンスビジネスの成功」に向けて手ごたえを感じる事ができました。また、経費削減に関しても、一定の成果が得られ、黒字体質への転換に向けても着実に進展することができました。今後の安定的な事業拡大へ向け、中期的な基盤が築けたと考えております。

2012年3月期における取り組み

2012年3月期におきましては、NGNの進展、スマートフォン等の爆発的な普及など、当社事業分野が拡大する傾向にあるものの、本年3月に発生した東日本大震災が今後の景気動向に影響を及ぼすと考えられ、今後の当社事業においても予断を許さない状況であります。

当社事業に関しては、昨年度より中期経営方針に基づき進めている「収益基盤の拡大」を目指した活動が成果を出し始めており、商用製品、サービス関連のライセンス販売、開発案件が増加してきております。これらの取り組みを積極的に進めるとともに、昨年度に引き続き「黒字体質への転換」の取り組みとして、先行きが不透明な市場に対応すべく更なる柔軟なコスト構造へ向けて体質強化をしてまいります。

このような方針のもと、当事業年度は昨年度に引き続き増収増益に向けて全社一丸となり、これらの活動に尽力してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月吉日

代表取締役社長 阪口克彦

Management Policy 中期経営方針

ソフトフロントは、

当社のSIP技術をデファクトスタンダードにする

ソフトウェアのライセンスビジネスを成功させる

を経営基本方針としています。

2010年5月に掲げた「中期経営方針」のもと、「収益基盤拡大」と「黒字体質への転換」を重点課題として、「ライセンスビジネスの成功」に取り組んでまいりました。

この結果、2011年3月期の黒字転換を果たすことができました。2012年3月期も引き続き、「収益基盤拡大」及び「黒字体質の確保」に重点を置き業績の向上に努めてまいります。

収益基盤拡大

- 安定した収益を確保できる分野の創出、拡大
- ライセンスビジネスに重点をおいた事業展開

<収益基盤拡大に向けて>

ソフトフロントの強みである技術の優位性を活かし、NTTグループとの業務資本提携を活用することで、SIPを中心とした先端技術に取り組む創造事業から「収益性の高い分野」、「成長分野」を収益事業分野として育てていきます。そして収益事業分野からの収益を創造事業に投資し、更なる収益事業分野を創出していくことで、収益事業分野を増やし、基盤強化に取り組んでいきます。これまでに「NGN-SDK関連分野」「MFP関連分野」「電力/サーバー系SI関連分野」「Web受託関連分野」が育ちましたが、これにとどまることなく、NGNの商用化サービスの進展、急成長を遂げているスマートフォン市場等、SIP関連技術の需要が高まりをみせる中、更なる収益事業分野を創出し、当社のビジネスフィールドの拡大に努めてまいります。



黒字体質の確保

- 業績の変動に対応し、黒字が確保できる柔軟な費用構造への転換

<黒字体質の確保に向けて>

当社を取り巻く市場は、新規市場という性質から、拡大規模やスピードの予測が難しい状況にあります。このような市場環境においても、右に挙げる施策を更に進めることで、柔軟な費用構造とし、着実に収益をあげていきます。

●ソフトウェア利益率の向上

引き続きソフトウェア資産の管理を徹底し、減価償却負担を適正化することによって、ソフトウェア利益率を向上させます。

●外注加工費の流動化

一部定期的に委託していた外注作業の内製化を進め、固定的な外注加工費を減少させることにより、今年度も更なる外注加工費の流動化を進めます。

●業績連動給

2011年3月期は、業績連動型賞与制度へと完全移行することができました。今年度も引き続き人件費が業績の変動に対応できるようにしていきます。

●固定費削減

2011年3月期は、全社にわたる経費削減の取り組みにより、固定費を1割近く低減できました。ムダな支出を防ぎ、効果的な運用を継続させてまいります。

5月24日

ブロードアースのクラウド型コンタクトセンターシステム「HooooPs」にソフトフロントの音声エンジンを搭載

5月31日

「ひかり電話」でのデータ通信サービス「データコネクト」に対応した「SUPREE Vision Premier Pro app-data edition」を提供開始

5月31日

ソフトフロント、「フレッツ 光ネクスト」の「ひかり電話」に接続するT.38対応IP-FAXライブラリを発売

10月28日

ソフトフロント、Cisco 2800シリーズサービス統合型ルータが提供する T.38 FAXリレー機能に対応したIP-FAXライブラリv2.0をリリース

1月9日

ソフトフロントと日本製鋼機器、「Dataway【DW-NGN-100】」の商品化に向けて業務提携

11月9日

ソフトフロント、携帯電話向け通話録音サーバーを販売開始

6月14日

ソフトフロントとラドビジョン、業務提携に基本合意

9月28日

ソフトフロントとネイクス、パートナーシップ契約を締結

2010

4 5 6 7 8 9 10 11 12

2011

1 2 3

FINANCIAL SECTION 1 | 財務諸表

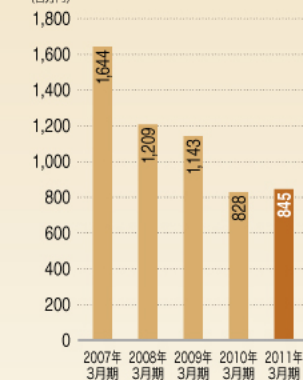
■ 貸借対照表

(単位:千円)

	第13期 2010年3月期	第14期 2011年3月期
資産の部		
I 流動資産	669,140	679,712
II 固定資産		
有形固定資産	15,635	15,058
無形固定資産	97,172	104,198
投資その他の資産	46,226	46,732
資産合計	828,174	845,702
負債の部		
I 流動負債	76,465	85,522
負債合計	76,465	85,522
純資産の部		
I 株主資本		
資本金	2,792,479	2,792,479
資本剰余金	2,574,639	2,574,639
利益剰余金	△4,615,410	△4,606,938
純資産合計	751,708	760,180
負債純資産合計	828,174	845,702

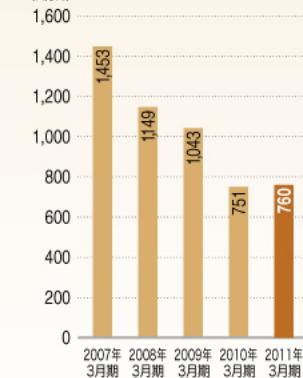
■ 総資産

(百万円)



■ 純資産

(百万円)



FINANCIAL SECTION 2 | 財務諸表

■ 損益計算書

(単位: 千円)

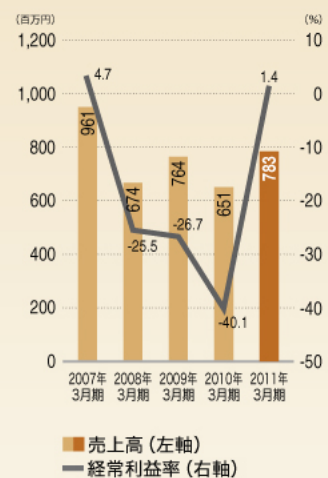
	第13期 2010年3月期	第14期 2011年3月期
I 売上高	651,849	783,215
売上原価	432,221	370,621
II 売上総利益	219,627	412,594
販売費及び一般管理費	481,241	401,789
III 営業損益	△261,613	10,804
営業外収益	487	406
営業外費用	64	14
IV 経常損益	△261,190	11,196
特別利益	1,647	-
特別損失	29,470	304
V 税引前当期純損益	△289,013	10,892
法人税、住民税及び事業税	2,420	2,420
VI 当期純損益	△291,433	8,472

■ キャッシュ・フロー計算書

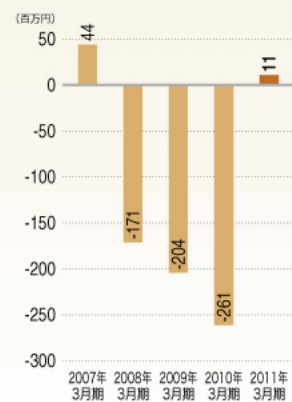
(単位: 千円)

	第13期 2010年3月期	第14期 2011年3月期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△121,543	33,799
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△67,568	△75,812
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	-	-
IV 現金及び現金同等物の増減額 (△: 減少)	△189,112	△42,013
V 現金及び現金同等物の期首残高	524,915	335,802
VI 現金及び現金同等物の期末残高	335,802	293,789

■ 売上高/経常利益率



■ 経常損益推移



INFORMATION | インフォメーション

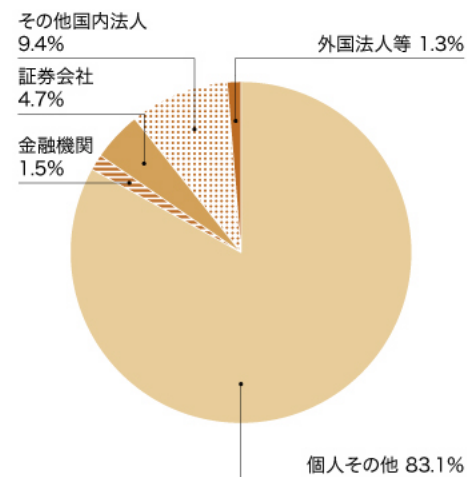
■ 株式の状況

発行可能株式総数	324,400株
発行済株式総数	92,002株
株主数	4,337名

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
村田 利文	7,704	8.37
NTTインベストメント・パートナーズファンド投資事業組合	5,730	6.22
長屋 正宏	3,344	3.63
小川 武重	2,035	2.21
株式会社SBI証券	1,594	1.73
大阪証券金融株式会社	1,169	1.27
寶門 行雄	1,000	1.08
株式会社長屋商会	917	0.99
マネックス証券株式会社	834	0.90
長谷川 聡	821	0.89

■ 所有者別状況



■ 株価の推移

